

特集:新生、名古屋大学医学部保健学科のめざすもの

理学療法学専攻

猪田 邦雄

はじめに

国民の健康に対する関心の高まりとともに、保健・医療に対する要望もますます多様化し、今や国民は良質で、きめ細かな保健・医療サービスを求めています。これに応えるには、高度化、複雑化する医療と倫理の問題に対処できる人材が必要となります。また、疾病構造の変化や社会の高齢化に伴う医療体制の整備のためにも、人材確保は現時点で早急に解決しなければならない課題となっています。

昭和38年(1963)に、我が国で最初の理学療法士、作業療法士の養成が、3年制各種学校(後に専門学校)において、開始されました。それから16年後の昭和54年(1979)に3年制短期大学により、その13年後の平成4年(1992)には4年制大学において理学療法学・作業療法学の教育が始まっています。平成8年(1996)には14校の3年制短期大学、10校の4年制大学において理学療法学・作業療法学の教育が実現しています。平成9年には3年制および4年制の大学を含む、理学療法学課程は98校となり、作業療法学課程は78校となっています。この現状を鑑みると、今後は社会の要請に応え得る、より質の高い、生涯学習し続けることのできる有能な理学療法士及び作業療法士の教育が望まれています。

そこで、たゆまず理学療法の科学性を追及し、広く国際的視野に立って行動できる心豊かな理学療法士、研究者あるいは教育者の育成を目指して次のような教育課程を編成し、二つの大講座を置いて教育、研究を進めます。

教育課程の特色

リハビリテーション医療の最前線の一翼を担う理学療法には、疾病からの人間的復権を理解できる豊かな人間性と理学療法を理論的かつ科学的に裏付けられる学問的素養が求められます。人間を対象としている事を常に念頭において、経験や感覚に頼りがちであった旧来の理学療法を脱却し、専門的技術や知識を理論的にも高め、学問として体系化できる人材を養成することを基本的理念と

して教育課程を編成しました。

1. 豊かな人間性の形成

人間性を養うために、チーム医療としての他職種との連携、クオリティ・オブ・ライフ (Q.O.L.) の向上や在宅での家族、地域との関連を踏まえた科目 (クオリティ・オブ・ライフ論、老年期特性論、地域リハビリテーション概論、保健行政論等) を開設しました。

2. 生体の構造と機能を関連付けた人体機能の体系的教育の充実

人体の構造、機能、代謝を「運動」という観点から学び、正常運動から異常運動、機能障害、更にその「病態」の理解が可能となるよう、人体が三次元的に再構築できるような内容としました。人体構造機能学及び同実習のほか、病態人体構造学・病体運動学を開設し、演習及び実習を多く採り入れています。

3. 障害に重点を置いた疾患の体系的教育の確立

従来の臨床医学にあった内科学、神経内科学、整形外科、小児科学、精神医学等を「機能」と「障害」及び「その回復」の観点から理解できるように整理し、相互に関連が持てるようにしました。また、機能障害の発症、予防、治療及び機能再建として、運動機能障害学、運動機能再建学等の新しい教科を開設しました。

4. 生体反応と理学療法の理論的関連の充実

物理療法が物理刺激に対する生体の反応としての調節及び防御であることを生体反応学等により理解させ、それに対する治療として理論的に証明できる習慣を身に付けられるようにしました。更に、生体に現われた障害を生体からの情報として、定量的・機能的に分析、評価できるよう演習や実習を盛り込むことにより、常に病態を理解し、学問としての理学療法を教育できるよう従来の理学療法を新しく体系化しました。

5. 生涯健康とスポーツへの対応の強化

スポーツ障害や健康維持を含めた生涯スポーツに対応できるよう運動代謝理学療法学、スポーツ理学療法学等を開設し、今後増加するスポーツ障害や健康維持、生活習慣病の予防を含めたスペシャリストの育成を可能にしています。

6. 高齢化社会における地域リハビリテーション教育の充実

高齢化社会の中での地域リハビリテーションは重要であり、それに対応できるよう地域理学療法学を設け、行政及び福祉とのかかわり、病院と在宅及び老人施設とのかかわり、並びに理学療法士の役割を教育します。また、家屋構造や福祉機器と関連する理学療法工学も開設しました。

7. 医療技術の情報化・国際化に対応した教育の充実

今後の医療技術の情報化・国際化に対応できるよう医用情報科学、コンピュータ解剖学、医療英語等を開設しました。

二つの大講座

1. 基礎理学療法学講座

理学療法の研究の基礎となる知識や技術を開発・発展させるため、生体の構造と機能を関連付けた体系的な基礎（医学）教育、運動からみた人体機能の体系的教育、機能と障害に重点をおいた臨床医学の体系化による教育、機能と障害を病態として理解し、その評価を可能とする教育とそれらの研究を行います。

2. 病態理学療法学講座

理学療法の実践に必要な科学的知識と技術を発展させるため、経験や感覚に頼りがちな生体反応の認識を情報として定量的に評価することや、障害を機能的に分析し、理学療法の適用との理論的関連を迫及することを通して、障害の回復・予防等の治療に対する科学的な教育・研究を行います。併せて、生涯健康とスポーツへの対応や高齢化社会におけるリハビリテーション教育の充実をはかることにより、スペシャリストや教育・研究者の育成も行います。

なお、社会人の学習機会の一層の拡充を図るため、3年次からの編入学制度も設けています。さらに、理学療法学と作業療法学とが共同体制をとりながらリハビリテーション学修士をめざして、平成14年度には修士課程を設置することを当面の目標としています。その後においては、博士課程の設置をも視野に入れて努力を続けていきます。

幸い大幸キャンパスは敷地面積約48,500m²を有し、同じ敷地内には大幸医療センターがあり、南には名古屋ドームが隣接し、名古屋市によるスポーツセンター設置も計画されています。また、地下鉄4号線が建設中であり、大曽根―名古屋大学間のうち、大曽根―砂田橋間が平成11年度完成を旨として工事が急ピッチで進められています。さらに、大曽根―瀬戸を結ぶ新交通システムのガイドゥェバスも平成11年度開通に向けて工事が行われています。これらの完成により、東山キャンパスや鶴舞キャンパスとの交流は容易となり、都市型キャンパスへと変わる中で、医学科はもとより関連分野との学際的教育や研究が可能となることを考慮に入れて、一層の発展を期しています。

(名古屋大学医学部教授・保健学科理学療法学専攻主任)